

技術
ファイブ
電子
サン
電

放送用音声機器

安価で省スペース

モジュール組み合わせ

【立川】サンファイブ電子技術（東京都稲城市、小川智準社長、042・377・8156）は、機能モジュールを組み合わせて、必要な装置を構成できる放送用音声機器システム「TinO」を10日に発売する。アンプ、スイッチャー、リレーなど22種類のモジュールを組み合わせる。価格は一般的な装置の組み合わせで19万円前後。年間100万の販売を目指す。

1U（44・5mm）サイズの筐体内に三つの機能を搭載できる。単機能のユニットを組み合わせる場合より省スペースとなるほか、機能追加のために設計する手間を省き低価格・短納期を可能にした。製造段階での急なシステム変更や放送現場でのシステム調整を容易に行える。さらに、特注のモジュール製作も受け、製品保証期間は5年間と通常の5倍長くし信頼性を高めた。

同社は放送局や中継ヘリコプター、イベントホールなどの音声機器を手がける。放送局の地上デジタル放送への設備対応が一段落したことから、今後は放送現場に合わせたシステムを調整するニーズが増えると予測して、製品のモジュール化を進めてきた。在京キー局だけでなく、低価格をアピールし地方の放送局などの需要も開拓する。

1U（44・5mm）サイズの筐体内に三つの機能を搭載できる。単機能のユニットを組み合わせる場合より省スペースとなるほか、機能追加のために設計する手間を省き低価格・短納期を可能にした。製造段階での急なシステム変更や放送現場